

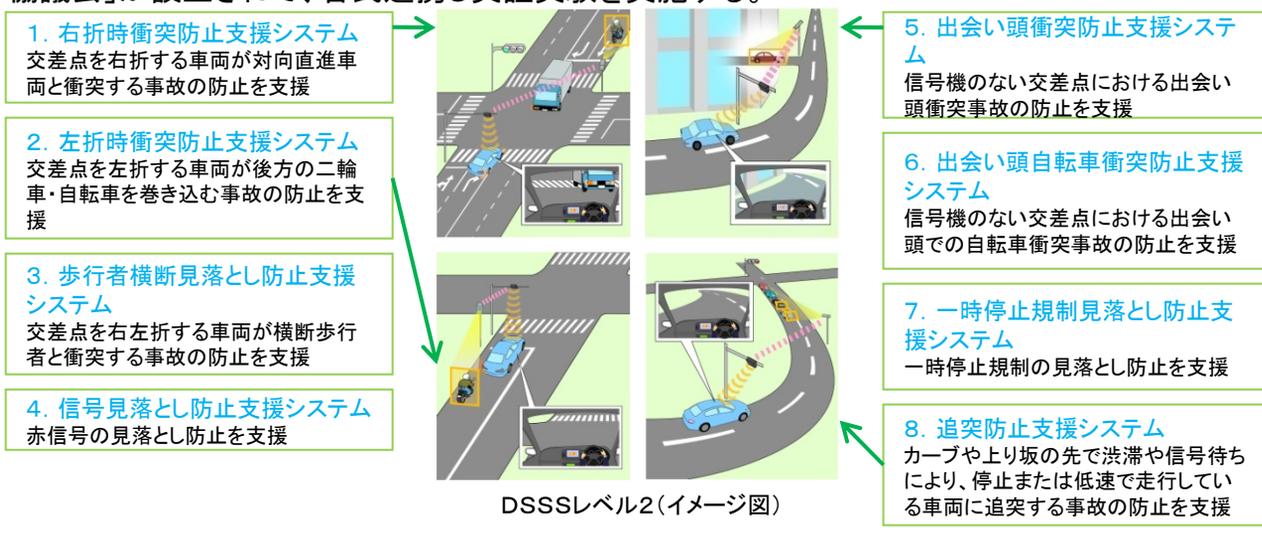
# 交通事故死傷者数、交通事故件数を削減するために路車協調による安全運転支援システムの実証実験を実施

## 研究成果のポイント

運転者の認知・判断の遅れや誤りに起因する交通事故の未然防止を図ることを目的として、運転者の死角にある危険要因について、感知器で検知した情報を通信機器を介して車載機に送信し、運転者に注意喚起する安全運転支援システム(DSSS)の研究開発を進めている。

DSSSにはレベル1とレベル2があり、レベル1は運転者の死角にある危険要因について、感知器が検知した情報等を通信機器を介して車載機に送信し、車載機が簡易図形を表示する。レベル2は、車載機がインフラからの情報と自車情報を統合処理し、危険性を判断し、必要な場合に注意喚起情報を生成し、音声や画像で運転者へ伝達する。大規模実証実験においては、路センサの検知精度、通信の信頼性及び位置標定精度の向上、車載機からの伝達タイミングの調整を図り、また、統一的仕様に基づくインフラ機器を用い、異なるメーカー間の車載機の互換性確認、システムアプリケーションの効果・受容性、効果的なサービス・システムのあり方について検証し、事故削減への寄与度について定量的な評価を行う。

平成18年1月に策定された「IT新改革戦略」に示された大規模実証実験や将来計画を検討するため、ITS関係4省庁(警察庁、総務省、経済産業省、国土交通省)のほか、内閣官房が政府機関として参画し、自動車メーカー、電機メーカー、ITSJapan等関連団体・組織を中心に「ITS推進協議会」が設立されて、官民連携し実証実験を実施する。



## 期待される効果、今後の展開

官民連携した安全運転支援システムの大規模な実証実験を通じた効果的なサービス・システムのあり方についての検証及び事故削減への寄与度についての定量的な評価を実施し、この実証実験を踏まえて、有効性が確認されたシステムについて2010年度から事故多発地点を中心に全国展開を図る。

このシステムが普及することにより、漫然運転、脇見運転、安全不確認等運転者のミスに起因する交通事故の減少が期待される。